様式2

平成28年2月10日

平成27年度　評価計画及び自己評価

（計画・中間・最終）

警固屋中学校区　校番　8　　学校名 警固屋中学校

a 学校教育目標	「自分を創る」 ひびきあうことば　きょうどう ひびきあういのち“響Do” ひびきあうまなび	b 経営理念 ミッション・ビジョン	〈ミッション〉 （学校の使命）	小中一貫教育を通して，「自他の幸せを目指し，自立し貢献できる人間」の根っこを育てる。
			〈ビジョン〉 （将来の学校像）	・行くのが楽しみな学校の実現。 ・会うとうれしくなる先生の育成。 ・会うとうれしくなる仲間の構築。

c 中期経営目標を踏まえた現状（進捗状況）と今年度の重点	【現状（○成果●課題）】 ○ 小中一貫教育を推進する組織体制が確立しており，小学校と中学校の一体的な学園運営が軌道に乗っている。 ○ 学校教育目標『自分を創る』により，教職員・児童生徒・保護者・地域が，双方向的な教育を深化させている。 ● 各学力調査において，知識・技能を活用する問題に課題がある。 ● 呉市及び県の動向（小中一貫教育研究第３期等，「学びの変革」全県展開〔H30〕）を踏まえた体制やシステムづくりを推進し，教育活動の段階的なステップアップを図る必要がある。 ● 生徒実態を踏まえ，特別支援教育の視点による授業づくりの推進が求められる。 ● 「ことば」「いのち」「まなび」をキーワードとした教育活動は，本校教育の基盤として継続する。 上記の現状より，次の５点を今年度の重点とする。 ①「自分を創る」ストーリーを自分の言葉で語れる生徒の育成　②思考力・表現力の向上　③小中一貫教育校として新たな価値を創造する学校組織の構築　④誰もが安全で安心して学べる教育環境の確保　⑤警固屋地域における学校・家庭・地域による双方向の教育の推進

評価計画（中期経営目標を設定してから　1　・　2　・　③　年目）						自己評価					
重点	d 中期（3年間）経営目標	e 短期（今年度）経営目標	f 目標達成のための方策（こんなことをして達成します）	g 指標（効果を見とる目安）	h 目標値	9月 i 達成値	9月 j 達成度	9月 k 評価	2月 i 達成値	2月 j 達成度	2月 k 評価
★★★	生徒も教職員も生きた言葉で語り合い，触れ合う環境を創る。 貫	○いつでも誰に対しても気持ちの良いあいさつと返事ができる。（地域と共に「あいさつのできる警固屋っ子」の育成）	自治会長会，民児協，補連協等への適時適切な情報発信と連携の充実	地域での児童・生徒のあいさつについて，地域住民の肯定的な評価の割合。	85%	81%	95%	B	88%	104%	A
		○生徒の「ことばの力」を高める。（読書習慣の形成）	・朝読書の時間の確保 ・図書委員会の啓発活動の充実	１か月に１冊本を読み切る生徒の割合。	75%	50%	67%	C	61%	81%	B
		○自分の思いを表現する力を高める。	自立ノートの振り返り欄の記入の徹底	自立ノートに自分の気持ちを綴ることのできる生徒の割合。	85%	71%	84%	B	71%	84%	B
★★	かけがえのないいのちの自覚を生徒・保護者・地域に根付かせる。	○一人一人がかけがえのないいのちであることを自覚させ，いじめを許さない学校風土をつくる。	・道徳教育の重点目標を「自尊感情の育成」とし，教育相談やワークシートの効果的な活用 ・「今日のMVP」の取組	自尊感情についての生徒の肯定的な評価の割合。	70%	75%	107%	A	74%	106%	A
			・教職員の日常的な生徒の実態の把握による早期発見・早期解決体制の整備 ・生徒会によるいじめ撲滅に係る主体的な活動の実施	いじめアンケートにおいて，「いじめはない」という回答。	100%	100%	100%	A	100%	100%	A
★★★	自分の意見を持ち，自分の言葉で説明できる力をつけ，学びの質を高める。	○思考力，表現力を高める。	思考ツールを活用した授業の創造	「基礎・基本」定着状況調査生徒質問紙の思考力に係る項目の肯定的評価の割合。	85%	67%	79%	C	75%	88%	B
		○課題解決能力を高める。	課題を見付け，協働的に問題解決を図り，実践する単元の開発・実践	課題解決能力についての項目の生徒の肯定的評価の割合。	80%	74%	93%	B	77%	96%	B

【k:評価】
A:100≦（目標達成）　B:80≦（ほぼ達成）＜100
C:60≦（もう少し）＜80　D:（できていない）＜60

様式3

平成28年2月29日

平成27年度　結果の分析及び今後の改善策（案）

（ 中間 ・ 最終 ）　　警固屋中学校区　校番　8　　学校名　呉市立警固屋中学校

重点	d 中期（3年間）経営目標	e 短期（1年間）経営目標	l 結果の分析（結果と課題をこう考えます）	m 今後の改善策（案）（こう改善します（案））
★★★	生徒も教職員も生きた言葉で語り合い，触れ合う環境を創る。	○いつでも誰に対しても気持ちの良いあいさつと返事ができる。（地域と共に「あいさつのできる警固屋っ子」の育成）	9月の地域住民を対象としたアンケートでは，児童・生徒のあいさつについての肯定的な回答は81％と，目標値を下回った。しかし生徒アンケートの肯定的な回答は，7月90％，12月89％，2月88％と，いずれも目標値を上回ってはいるが，生徒の地域でのあいさつについての意識が段々と低下している状況にある。	今回の達成値は目標値を上回ったが，前回の89％から88％とわずかながらでも下がったことを受けて，校内でのあいさつ運動や授業の号令や返事，意見発表などの取組を徹底していく。特に来客者に対するあいさつや返事についても自ら進んでできるように取組を進めていく。校外でのあいさつも，現在行っているあいさつ運動を継続していく。
		○生徒の「ことばの力」を高める。（読書習慣の形成）	教職員や委員の呼びかけにより，記録に残すことは少しできるようになった。学級文庫に「学習漫画人物伝」を置くことで，なかなか本を手にしない生徒たちへの起爆剤とすることはできた。すべての学級文庫を読もうという目標をたてたり，仲間と競い合う生徒も出て，朝読書の活性化を図ることはできた。しかしながら，「読書」としてあるべき姿は漫画ではないという生徒の厳格な意識から，読書冊数の数値には変化がないと考える。	学習漫画への生徒の興味・関心を起爆剤にその他の読書へも移行するようさまざまな書物を揃える。図書委員の中に，「読書貯金通帳の記録」に対する意識が生まれてきたので，委員会を活用しながらその輪を広げていきたい。
		○自分の思いを表現する力を高める。	今回，「私は，『自立ノート』に自分の気持ちを綴っています。」と肯定的評価をした生徒が前回と同様に71％で変動がなく，目標値の85％には到達していない。しかし，総合的な学習の時間をはじめとする様々な活動後の自立ノートには，活動内容以外にも，自分の生活を振り返り，今後さらに自己を高めようとする内容も増えてきており，生徒の意識の向上を見て取ることができる。	現在，自立ノート以外にも様々な行事後に国語科と連携して俳句を作成させ，自分の思いを高める取組を行っている。この取り組みを継続していくと同時に，様々な活動を「自分を創る」という視点から自分自身を見つめることで，生徒の感動をより大きなものにしていくことにより，自立ノートの一日の振り返りを通して，内面を見つめ深化するよう働きかけていく。
★★	かけがいのないいのちの自覚を生徒・保護者・地域に根付かせる。	○一人一人かけがえのないいのちであることを自覚させ，いじめを許さない学校風土をつくる。	生命の尊さについての生徒の肯定的な評価は，91％と高い割合を示している。今回のアンケート調査では，「いじめはない」と回答した生徒は，前回と同様に100％の目標値を達成した。これは，自立ノートや教育相談等の取組と「いじめ撲滅キャンペーン」による啓発活動の成果だと思われる。	道徳の時間や学校生活の中で，いのちの尊さを自覚できる取組を継続していく。自立ノートのコメントを丁寧に行ったり，教育相談を定期的に行うなど，個々の思いを引き出せる場を継続して設定する。また，「今日のMVP」の取組を継続しつつ，多くの行事における達成感，充実感を味わわせ，やればできるという自信を高めていく。
★★★	自分の意見を持ち，自分の言葉で説明できる力をつけ，学びの質を高める。	○思考力，表現力を高める。	2学期の「思考ツール」を活用した授業の本格的実施に伴い，わずかながら生徒の意識が向上したものと考える。しかしながら，目標値には10ポイントも届かず，研究主題に対する達成値としては，はかばかしくない。生徒はふだんの授業の中でも気づかぬうちに「比較・分類」を多々行って思考の一助としているが，「ツールの活用」も含め，一つ一つの活動の意味を考えずに生活しているので意識が低い部分もあると考える。	必要性に迫られた場面での思考ツールの活用の実践，及び一つ一つの活動の意味を生徒に意識させる。また，活動に対する評価を行うことでその達成感や成就感を喚起し，向上心につなげる。
		○課題解決能力を高める。	中間評価時と比べて，生徒の肯定的評価の割合はほとんど変わらず，目標値より3ポイント低い結果となっている。様々な場面でグループで相談したり，協力したりして取り組むことで，「協働」に対する生徒の意識は高まっているが，やはり，思考力，表現力を高めていかなければ，「自ら課題を見つけ」「解決方法を考える」という力が身についたとさらに実感できるまでにはいかないと考える。	研究授業や特活・総合など，あらゆる教育活動時に，特に「自ら課題を見つける」場面や「解決方法を考える」場面において，「思考力，表現力を高める」取組を意識的に行い，それらの力が身についたとさらに実感させる。あらゆる場面での「協働」を図り，それに対する生徒の意識をさらに高めていく。

様式4

平成28年3月4日

平成28年度　学校関係者評価及び改善策

（ 中間 ・ 最終 ）

警固屋中学校区　校番　8　学校名　呉市立警固屋中学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標，指標の設定の適切さ	A	学校全体の雰囲気と，生徒個々の資質を考慮した上で設定されている。また，アンケート等で地域の声を取り入れて取り組んでいると感じる。一昔前のことを思うと，生徒は随分と落ち着き，学校は良くなった。今，警固屋中学校が目標として取り組んでいることは，絶対に間違っていない。自信を持って実践していって欲しい。
目標達成のための方策の適切さ	A	生徒のことば力を高めるために，読書習慣に力を入れているのは，大切なことであるので継続していって欲しい。生徒に本に親しませ，読書への関心を喚起するために「学習漫画」を導入されたことは，時代にマッチした適切な方策である。
自己評価の結果と分析の適切さ	A	適切に評価・分析されていると，報告書を見る限りそう思うし，また外から客観的に見ても，その通りだと感じる。
今後の改善策（案）の適切さ	A	「学習漫画」や「五・七・五」，「今日のMVP」など，生徒の実態に応じたユニークな，そして効果的な一番良い方法が見いだされている。今後の成果に期待したい。 ただ，読書を充実させるためには，時間の確保が必要である。昨今の中学生は，時間的にとてもタイトな毎日を過ごしいる。自身の生活をふり返り，時間のスペースをつくっていく方法を，生徒にアドバイスしていく必要がある。
その他		○地域（自治会，社協，その他諸団体等）や支所との連携を常に図っていただいている。市民センターの副センター長が，警固屋地区の課題について生徒に考えさせるために，授業に参加したという事例は，他地域には見られないことではないか。大変素晴らしいことである。今後も引き続き連携を深めてもらいたい。 ○中学校は，きめ細かな取組をされており，成果を上げている。それを地域にもっと効果的にアピールしていって欲しい。

※　評価は，A（とても適切），B（概ね適切），C（あまり適切でない），D（まったく適切でない），N（分からない）

学校関係者評価を受けての今後の改善策	○毎月行われる警固屋地区の自治会長連合会や民生・児童委員会，また二ヶ月ごとの社会福祉協議会に校長が参加し，地域との連携を深めている。継続していくと共に，この場で学校の取組についてより具体的に発信していきたい。また毎月「学園だより“ひまねき”」を発行し，地域に回覧しているが，その内容が行事的なものに終始し，マンネリ化していることは否めない。教育目標をふまえた，具体的な教育実践について，“ひまねき”を通して地域に発信していきたい。 ○読書を充実させていくために，朝読書の時間や「読書貯金通帳」の取組を徹底していく。また，生徒が自らの生活を見直し，時間を確保し読書に親しんでいくように，「自立ノート」に読書時間を記入させるなど，具体的な方略を構築する。